
殺人鬼プーターロー

逢坂十七年蝉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

殺人鬼ブー太郎

【Nコード】

N0377V

【作者名】

逢坂十七年蝉

【あらすじ】

某企画参加作品です。

オレが人を殺すのを辞めて、半年が経った。

働く意欲があっても働いていない人間のことを一般にプータローと呼ぶらしい。

となれば、オレは正しくプータローだ。

意欲はある。だが、肝心の仕事の方がない。

「選り好みをしなければ、仕事は簡単に見つかりますよ」

ハローワークの職員はそう言って慰めてくれたが、こればかりはオレの生き方の問題だ。

帰りのマクドナルドでハンバーガーと水を頼む。

殺しをやめたことで親には勘当され、付き合っていた彼女にも愛想を尽かされた。

貯金はまだあるし失業保険も受給しているが、節約するに越したことはない。

節約するなら自炊すればいいじゃないかと笑われるかもしれないが、そういった才能はオレにはない。

オレにあるのは、人殺しの才能だけだ。

自室に帰り、洗面所に立つ。

染み付いた習慣で肘までをしつこいほどに洗い、アルコールで消毒する。

まだ血が付いている気がするのだ。

今でもふとした瞬間に、指先に肉を切る感触が蘇ることすらある。拭い去るうとしても、過去はオレの血肉にこびりついて離れない。

ベッドに倒れ込みながら、漠然とした将来への不安に頭をめぐらす。このままオレは、殺人鬼のプータローとして生涯を終えるのだろうか？

それとも、あちらこちらに頭を下げて、殺人鬼に戻るべきだろうか？

枕元の写真には懐かしい半年前の職場が映っている。
城南大学病院、救急救命センター。

人殺しの園で、半年前のオレは静かに微笑んでいた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0377v/>

殺人鬼ブー太郎

2011年10月8日05時08分発行